

2011年 年頭挨拶

学長 山本健慈

新年明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしく願いいたします。

昨年は、3月のいわゆるランキング騒動に巻き込まれるという事態もありましたが、これを契機に学生、教員、職員はもちろん、同窓会の皆さんも交えて和歌山大学がもっている価値、財産を改めて認識するという内部的作業の大切さと、その財産・価値に自信をもって外部発信していくということの大切さを学んだ一年だったと思います。

この学びの経験が、23年度政府予算編成に伴う政策コンテストにかかわるパブリックコメントへの積極的参加にもつながったと思います。また多様多彩な人材を抱える大学という組織の本質にふさわしく、教員と事務系職員など異なる職種が相互にその存在を尊重し、敬意ある関係による協働が不可欠であるという理解が生まれていると思われまます。その意味で、第2期中期の事業は順調なスタートを切ることができたと考えてもいいのではないかと思います。

さて、昨年末、23年度政府予算案が決定されました。もっとも厳しい事態、最悪の事態を回避することができましたことは、和歌山大学関係者も含めた国民の働きかけの成果であると考えられます。しかし日本の政治、財政は抜本的な改革、教育政策の安定的な確立とは程遠く、国立大学法人の基盤は依然として不安定であることはいうまでもありません。だからこそ私たちは、和歌山大学が生き残るという個別大学の利害ではなく、社会における高等教育の重要性の国民的合意のために、いっそう奮闘する必要があると思います。

和歌山大学自身も、どのような時代認識をもち、どのような人材を育てるのか、どのように地域・社会・世界に責任をもっていくのかについて、より明快、鮮明にしていく必要があると考えます。そのために、近く第2期中期の課題の重点項目を、〈仮称〉『和歌山大学2011宣言』として公表したいと思います。

しかし、このように設定しております目標、課題、また宣言が表現する実態的価値としての教育、研究、地域貢献活動というものは、教員、職員、学生それぞれが、また協働が生み出すものであります。私ども役員は、そのために常にその最前線の活動に足を踏み入れ、当事者の声に耳を傾け、その活動を支援する経営を行うつもりであります。

皆様方におかれましては、旧年にもまして和歌山大学の発展のためにご助力をお願いいたします。

(2011年1月5日 新年互礼会にて)